

平成30年6月18日(月)

・(公財)いしかわ農業総合支援機構

担当:松本 電話:076-225-7621

・農業政策課 農政推進グループ

担当:栃本 (4694) 電話:076-225-1661

## 第43回いしかわ農業振興協議会総会の開催について

- 1 日 時 平成30年6月21日(木) 14:00~15:15
- 2 場 所 石川県農林総合研究センター第1会議室  
(金沢市才田町戊295-1)
- 3 会長挨拶  
いしかわ農業振興協議会会長 元 林 秀 夫
- 4 来賓祝辞  
石川県知事 谷 本 正 憲  
石川県議会議長 作 野 広 昭
- 5 中核農家経営改善・事業多角化及び地域農業振興共励会表彰式(受賞者 別紙)
- 6 会長感謝状贈呈式(被交付者 別紙)
- 7 議 事  
第1号議案:平成29年度事業報告及び収支決算報告承認の件  
第2号議案:平成30年度事業計画(案)及び収支予算(案)承認の件  
第3号議案:役員を選任について
- 8 参集者 会員等150名
- 9 事務局  
(公財)いしかわ農業総合支援機構 担当 松本 TEL(076)225-7621

## 中核農家経営改善・事業多角化及び地域農業振興共励会受賞者名簿

### (1) 経営改善・事業多角化共励会

#### 【優秀賞】

(ふりがな) 受賞者氏名	経営面積等	受賞理由
農事組合法人 あぐりあさひ  代表 きたなか ひろゆき 北中 博之  川北町	水稻 42.0ha 大麦 10.7ha 大豆(大麦跡) 1.5ha 玉ねぎ 0.6ha	<ul style="list-style-type: none"> <li>能美地区で初めて任意組織から法人化した集落営農であり、大麦跡の大豆や園芸品目として玉ねぎを導入し、他の組織に先駆けて園芸複合化の取組みを開始するなど、地区を代表するモデルとなっている。</li> <li>水稻晩植栽培の導入により、育苗ハウスの効率利用や作期分散による作業の平準化に取り組み、作付面積を拡大している。また、育苗作業の集約や作業体系の見直し、近隣の集落営農組織との交換による農地の集約、作目・作型ごとの圃場の団地化、自前での機械整備等により、米価下落による厳しい経営環境の中でもコスト削減を達成しており、安定した経営を実現している。</li> </ul>
農事組合法人 O n e  代表 みやの はじめ 宮野 一  金沢市	水稻 36.2ha れんこん 3.8ha にんにく 0.8ha	<ul style="list-style-type: none"> <li>水稻とれんこんを主とした法人経営を開始し、従業員の通年雇用や福利厚生を整備など、雇用体制の充実を図っている。トヨタの生産工程管理手法「カイゼン活動」を導入し、れんこんの出荷調整作業のムダをなくすなど、働き方の見直しによる作業改善に継続的に取り組んでいる。</li> <li>省力化技術の導入・作業工程の効率化による労働時間の削減に取り組み、作業改善や省力化技術の導入で捻出された余剰労力を活用し、にんにくなどの新品目を導入することで、経営基盤の強化を図っている。</li> </ul>

(2) 地域農業振興共励会

【優秀賞】

(ふりがな) 受賞者氏名	経営面積等	受賞理由
<p>農事組合法人 かみの んなーがら上野営農 組合</p> <p>代表理事 なかにし もりしげ 中西 盛重</p> <p>白山市</p>	<p>水稲 26.4ha 大麦（種子） 3.5ha そば 7.0ha にんじん 0.5ha</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥越地区で他に先駆けて法人化し、他集落の集落営農推進モデルとなっている。</li> <li>・水稲作業の省力化体系の構築と作期分散による「合理的な営農システム」を目指し、山間地域で初めて乾田V溝直播栽培に取り組み、地域内に定着させている。</li> <li>・手取地域で前例のなかった種子大麦の作付けによる地域農業の振興に取り組んでいる。また、水田を活用した集落営農組織の園芸複合化モデルとして、他の組織の模範となっている。</li> </ul>
<p>やまじょう やすし 山上 康</p> <p>羽咋市</p>	<p>すいか 5.0ha だいこん 5.0ha 水稲 8.0ha</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・露地野菜では県下で屈指の大規模経営を実践しており、地域の生産者の模範となっている。</li> <li>・経営の効率化・安定化のため、新技術の導入や経営内容の見直しに積極的である。栽培管理技術の改善や優良品種の選定のための試験を毎年実施し、得られたデータを部会で共有しながら、産地として品質向上を図るなど、地域全体のレベルアップにも貢献している。</li> <li>・JAはくいそさい部会長として、実需者が求める出荷時期に対応したトンネル開放時期の統一、契約取引の推進、販売促進会の開催などでリーダーシップを発揮している。</li> </ul>

(ふりがな) 受賞者氏名	経営面積等	受賞理由
あわくら 栗蔵水稻株式会社  代表取締役 うら つねお 宇羅 恒雄   輪島市	水稻 26.8ha 作業受託 4.5ha エアリーフローラ 0.02ha	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集落営農組織から集落営農法人へと発展したモデルケースの1つで、町野地区を代表する担い手である。また、栗蔵集落を中心とする9地区で「人・農地プラン」の中心経営体として位置づけられており、着実に農地の集積を進めている。</li> <li>・ 地域に先駆けて特別栽培米の生産を始め、独自ブランドを環境にやさしい差別化商品として直販しており、能登棚田米や能登米の先導的なモデルとなった。</li> <li>・ 作期分散・省力化の観点からV溝播種機の導入やひやくまん穀の栽培を、冬期労働力の活用の観点からエアリーフローラの栽培を行うなど、新たな取組みにも積極的である。</li> </ul>

(別紙)

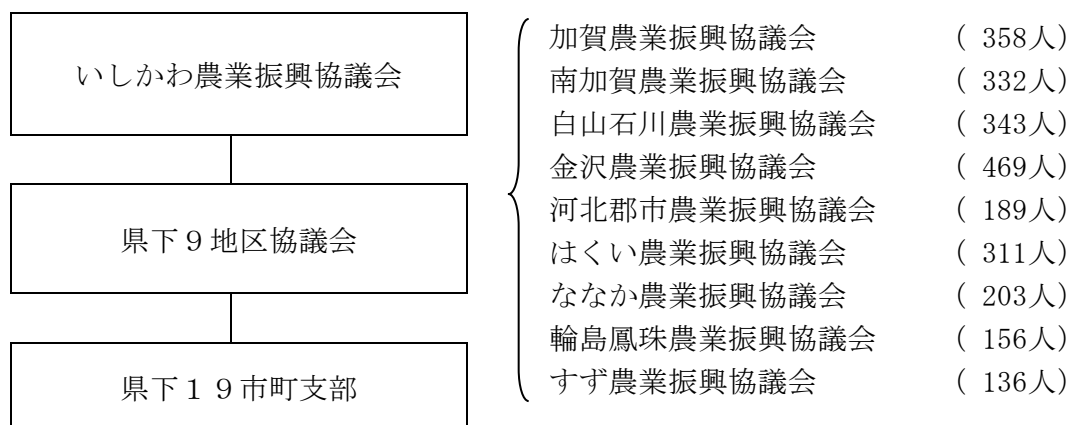
平成30年度会長感謝状被交付者一覧

地区協議会名	ふりがな 氏 名	住 所
加 賀	ひらまつ よしこ 平 松 世志子	加賀市
南 加 賀	きたもと しゅういち 北 本 修 一	能美市
白 山 石 川	ばんば みつこ 番 場 美津子	白山市
白 山 石 川	こじま しげはる 小 島 茂 治	野々市市
金 沢	たいら ゆきひさ 太 平 幸 久	金沢市
河 北 群 市	むらかみ じゅんいち 村 上 淳 一	津幡町
は く い	むらき てるえ 村 木 てる江	志賀町
輪 島 鳳 珠	はやし さちこ 林 幸 子	能登町

## いしかわ農業振興協議会の概要

- 1 いしかわ農業振興協議会は、県下9地区の地区協議会で組織され、昭和51年12月に石川県中核農家連絡協議会として発足した。

発足後、協議会を取り巻く状況が大きく変化したことにより平成19年に組織の見直し（会員の範囲を拡大、部会制度の導入等）を行い、それにあわせ名称変更を行った。



平成30年4月1日 2,497人

- 2 いしかわ農業振興協議会役員（平成28～29年度）

会 長 元 林 英 夫（金沢市）  
 副 会 長 小 蔵 和 浩（能美市）  
 副 会 長 今 本 重 蔵（かほく市）  
 副 会 長 井 田 啓 一（七尾市）  
 副 会 長 平 松 世志子（加賀市）  
 女性部会長 中谷内 昭 子（珠洲市）  
 顧 問 野 村 善 覚（小松市）  
 （平成30年6月21日改選予定）

- 3 主要行事（平成30年度予定）

(1) 総 会（6月21日：石川県農林総合研究センター）

(2) 知事との現地懇談会（11月中旬：南加賀地区）

(3) 研修活動

- ・全国担い手サミット参加（11月8・9日：山形県）
- ・研究発表大会（平成31年2月予定）  
 経営改善・事業多角化及び地域農業振興の事例発表

(4) 農林漁業まつり（10月中旬）

- ・地区協議会単位での農産物の展示等